

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュ江南		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 25日		～ 令和6年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 29日		～ 令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1人1人の様子に合わせて支援をしていく中で自分らしく安心して楽しく過ごせる時間を提供すること。	自由時間には、それぞれがやりたい遊びを楽しめるように環境を整えている。	子どもたちの成長やニーズの変化に対応していけるように支援員で情報を共有しながら、環境を整え支援していく。
2	1階と2階で活動の内容を分けているので、身体を思い切り動かして遊んだり、集中して製作に取り組んだりすることができる。	2階では支援員も一緒に身体を動かして遊び1階では座ってじっくりと取り組める遊びを楽しめるように環境を整えている。	遊びに必要な玩具を購入するなど、子どもたちが興味を持つ遊びの提案ができるようにしていく。
3	連絡や相談がしやすい。	LINEやInstagramを使った情報共有と連絡や相談がしやすい環境整備を心掛けている。	SNSを活用しながら、日々の送迎時などの連絡や必要に応じた面談を行っている。

i

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流会などの実施ができていなかった。	職員体制と社内整備ができていなかった。	開催に向けての準備を進めていく。
2	事業所での避難訓練に参加できる人数が少ない方法での実施していた。	職員体制と社内整備が整っていなかった。	何日かに渡って訓練を実地するように計画を立てる。
3	集団での活動が少なかった為、皆で何かをする時にはスムーズに活動することが難しい。	子どもたちの中で、みんなと一緒に同じことをして遊ぶ時間という認識が薄い。	繰り返しの中で、皆と一緒に同じことをする楽しさを感じられるように、子どもたちが興味を持ち意欲的に参加したくなるようなプログラムを考えていく。